

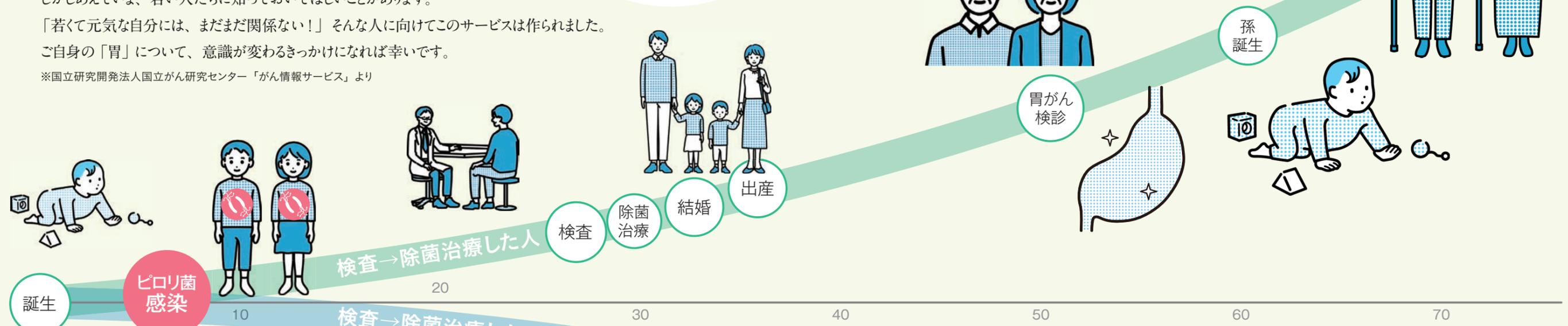
# あえていま、若い人へ、 胃がんの話。

胃がんと言われても、10代から30代の若い世代の人たちには、あまりピンとこないでしょう。胃がんは中高年以上から発症することが多いため\*、他人事なのは当然のこと。しかしあえていま、若い人たちに知っておいてほしいことがあります。「若くて元気な自分には、まだまだ関係ない！」そんな人に向けてこのサービスは作られました。ご自身の「胃」について、意識が変わるきっかけになれば幸いです。

※国立研究開発法人国立がん研究センター「がん情報サービス」より

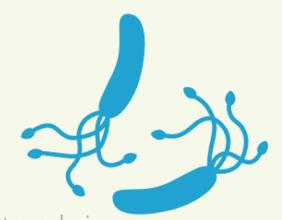


若ければ若いほど効果的  
未来のために、自身の世代で断ち切る行動を



## もし胃がんが予防できる病気だったら？

いま私たちは日常的に、さまざまなウイルスから身を守る生活をしています。コロナ禍によって私たちの予防意識と生活習慣は一変しました。ではもし、胃がんも予防できる病気だとしたら、あなたはどうしますか？



Helicobacter pylori

**真犯人はピロリ菌※1**  
ピロリ菌という言葉聞いたことはありますか？ 実はこのピロリ菌が胃がんの発生要因※2のひとつと言われています。幼少期に、この菌に感染すると、将来ほとんどの人が胃炎を発症します。そして胃炎を起こしている期間が長ければ長いほど、胃がんのリスクが高くなると言われています。年齢が若い時期にピロリ菌を調べ、見つかった場合は適切な除菌治療※3を行なう。これが将来、胃がんのリスクを軽減することにつながります。早ければ早いほど、つまり若ければ若いほど、効果は絶大なのです。

※1 正式名称は「ヘリコバクター・ピロリ」人の胃粘膜に定着する細菌  
※2 一部の胃がんを除く  
※3 胃炎と診断された場合に健康保険の適用となります

**ピロリ菌はいつ、  
どうやって感染するの？**  
かつては井戸水や川の水の飲用などによる感染がほとんどでしたが、上下水道の整った現代では感染率は下がっています。それでも感染者がゼロにならないのは、親族による経口感染が要因と言われているためです。家族に感染者がいる場合は同じように感染している場合が多いと言われています。ほとんどの人は幼少期に感染します。

**胃がん検診、  
50歳からでは遅すぎる**  
一般的に、健康保険に加入した人が胃バリウム検査を受けられるのは35歳から※1で、国が推奨する胃がん検診を受けられるのは50歳※2です。それまで感染に気付かず放置したまましていると、萎縮などで傷ついた胃が、がんの発生源となる恐れがあります。50歳で除菌しても、元の状態には戻りません。だからこそ、若くて健康なうちに対策をとる必要があるのです。

※1 協会けんぽ：生活習慣病予防健診の胃部レントゲン検査  
※2 厚生労働省 HP：がん対策情報より

# ピロリ菌と胃がん

## ピロリ菌は胃がんの発生要因

ピロリ菌は胃がんのリスク要因<sup>\*</sup>であることが示されています。胃がんは世界の部位別死亡数でも上位を占める疾患です。胃がん患者では高い確率でピロリ菌が検出されることが報告されています。

※出典：WHO（世界保健機関）のIARC（国際がん研究機関）胃がん予防戦略としてのピロリ菌除菌に関する報告書

240例の内視鏡治療をした分化型胃がん患者中  
ピロリ菌陰性は1例



Ono S, Kato M, Suzuki M, Ishigaki S, Takahashi M, Haneda M, Maibe K, Shimizu Y. Frequency of Helicobacter pylori-negative gastric cancer and gastric mucosal atrophy in a Japanese endoscopic submucosal dissection series including histological, endoscopic and serological atrophy. Digestion. 2012;86(1):59-65.

3,161例の外科手術及び内視鏡治療をした分化型、未分化型胃がん患者中  
ピロリ菌陰性は21例



Matsuo T, Ito M, Takata S, Tanaka S, Yoshihara M, Chayama K. Low prevalence of Helicobacter pylori-negative gastric cancer among Japanese. Helicobacter. 2011 Dec;16(6):415-9.

## 日本人に多い胃がん

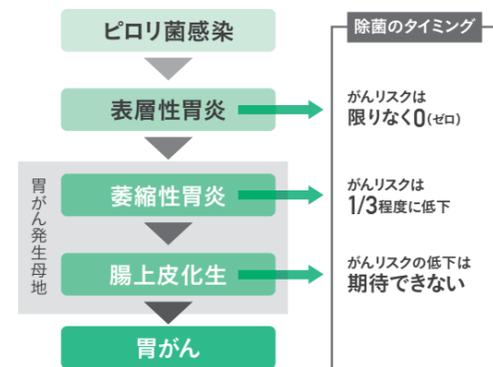
胃がんは、胃の内側の粘膜の細胞の突然変異によって発生します。とくに日本人に多いといわれ、主な部位別のがんでは罹患数、死亡数ともに第3位です。

※出典：国立研究開発法人国立がん研究センター がん情報サービス「最新がん統計」

| 部位別がん罹患数 |    | 部位別がん死亡数 |    |
|----------|----|----------|----|
| 1位       | 大腸 | 1位       | 肺  |
| 2位       | 肺  | 2位       | 大腸 |
| 3位       | 胃  | 3位       | 胃  |

## 感染から胃がん発生まで

ピロリ菌に感染すると、表層性胃炎から萎縮性胃炎となり、これが胃がんの発生母地となります。さらに進行すると腸上皮化生になることもあります。萎縮性胃炎の段階で除菌治療をするとがんのリスクは1/3程度に減ると言われていますが、腸上皮化生になるとリスクの低下は期待できないと言われています。



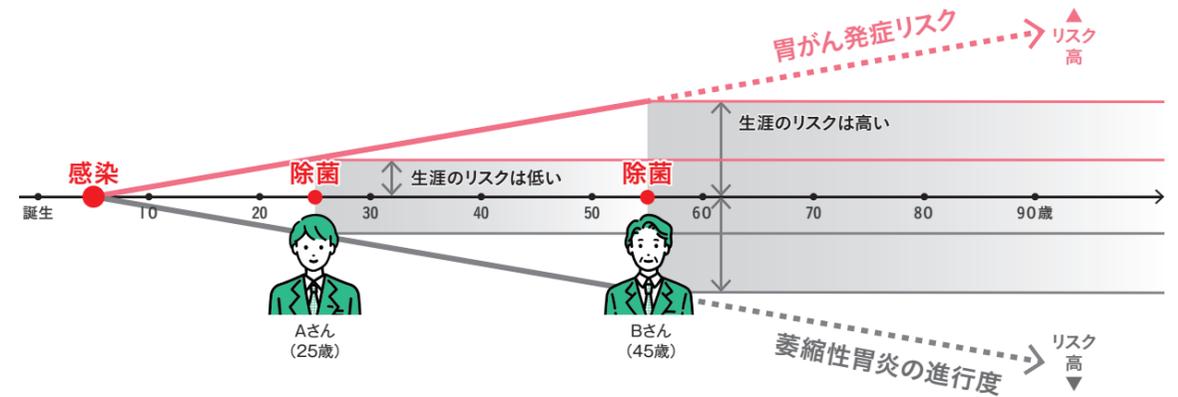
## 胃がんの治療費

がんの治療には診察費のほか、検査費や入院費、手術、放射線治療、薬物療法など、さまざまな費用が必要になります。健康保険に加入していれば、高額療養費制度や傷病手当金などの医療費の負担を軽くする制度はありますが、がんの進行度によっては負担が多くなる場合があります。



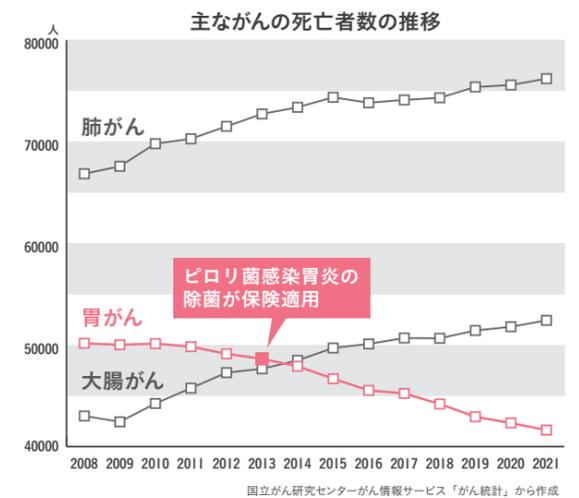
## 早めの除菌治療でリスクが減らせる

ピロリ菌に感染して、胃炎を患った年月が長ければ長いほど、胃がんのリスクは高くなります。下の図は除菌治療した年齢によって、がんの発症リスクが変化することをあらわしたものです。25歳で除菌治療をしたAさんと、45歳で除菌治療したBさん。二人の間に大きな差があります。この図からは若いうちに除菌治療すれば、一生にわたって、がんを予防できることがわかります。早ければ早いほど、リスクを下げられるのです。



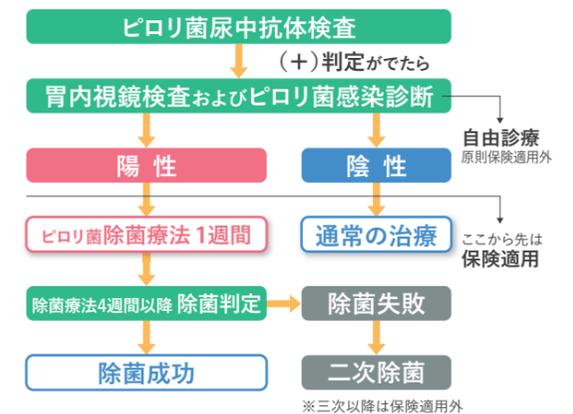
## ピロリ菌の除菌治療

ピロリ菌の除菌は、一般的には胃酸分泌抑制剤と抗生物質2種を用いた治療法で行われています。これまで除菌治療の保険適用は、胃潰瘍や十二指腸潰瘍などの病気のみが対象でしたが、2013年からピロリ菌感染による慢性胃炎も対象になりました。これにより胃がんの死亡数は減少傾向にあります。今後、除菌治療を行う人が増えれば、日本から胃がんを大幅に減らすことができるかも知れません。



## 除菌治療の流れ

ピロリ菌尿中抗体検査で(+)判定となった場合、胃内視鏡(胃カメラ)での精密検査とピロリ菌感染診断を行います。そこで陽性の診断がおりると、保険適用の除菌治療ができます。除菌が成功すれば経過観察、失敗の場合は二次治療となります。自覚症状のない場合の内視鏡検査は、原則保険適用外となります。



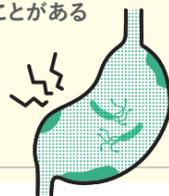
✓check!

## あなたの胃は大丈夫? ピロリ菌チェックリスト

監修：マブチメディカルクリニック院長 馬淵知子医師

- 胃痛や胃もたれを感じることもある
- 胃の不快感が慢性的に続いている
- 検診で胃炎を指摘された
- 歯周病にかかっている
- 胃薬の効果が継続しにくい
- 家族に胃がん、胃潰瘍、十二指腸潰瘍になった人がいる
- 家族にピロリ菌の感染者がいる
- 祖父母に育てられた
- 衛生環境の悪い地域や国に住んでいたことがある

当てはまる項目が多いほど、ピロリ菌感染の可能性が高いと思われます。早急に検査し、ピロリ菌の感染を確認した上で除菌治療をする必要があります。



健康への意識改革 胃がんのリスク要因「ピロリ菌」の感染チェックで罹患リスクを最小限に！  
 予防できるといわれている胃がんの早期発見をサポートする、新しいヘルスケア・サポートプログラム



▶ 早期発見の機会をつくる  
 ✓ 自宅で採尿

▶ 胃内視鏡検査受診をサポート  
 ✓ 全国の医療機関と提携

利便性の高い尿中抗体検査と精密検査を併せた、これまでにない先制医療支援サービスです。

全国の提携医療機関（胃部内視鏡検査 実施機関）

| 都道府県 | 件数  |
|------|----|------|----|------|----|------|----|------|-----|
| 北海道  | 10 | 埼玉県  | 19 | 岐阜県  | 4  | 鳥取県  | 1  | 佐賀県  | 2   |
| 青森県  | 1  | 千葉県  | 9  | 静岡県  | 7  | 島根県  | 1  | 長崎県  | 5   |
| 岩手県  | 1  | 東京都  | 43 | 愛知県  | 31 | 岡山県  | 11 | 熊本県  | 2   |
| 宮城県  | 3  | 神奈川県 | 26 | 三重県  | 5  | 広島県  | 6  | 大分県  | 4   |
| 秋田県  | 1  | 新潟県  | 1  | 滋賀県  | 3  | 山口県  | 5  | 宮崎県  | 2   |
| 山形県  | 2  | 富山県  | 4  | 京都府  | 7  | 徳島県  | 1  | 鹿児島県 | 1   |
| 福島県  | 4  | 石川県  | 6  | 大阪府  | 19 | 香川県  | 3  | 沖縄県  | 3   |
| 茨城県  | 8  | 福井県  | 2  | 兵庫県  | 16 | 愛媛県  | 6  |      |     |
| 栃木県  | 6  | 山梨県  | 1  | 奈良県  | 3  | 高知県  | 1  |      |     |
| 群馬県  | 7  | 長野県  | 2  | 和歌山県 | 1  | 福岡県  | 24 | 合計   | 330 |

全国に 330 か所  
 胃部内視鏡（胃カメラ）  
 検査の実施が可能な提  
 携医療機関が全国に約  
 330 か所ございます。  
 （2023年9月現在）

サービス内容

**(+)判定で胃内視鏡つき** **ピロリ菌尿中抗体検査 + 胃内視鏡検査 受診サポート**

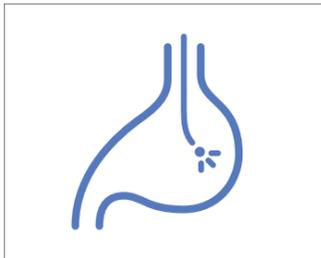
**ピロリ菌検査**



尿中のピロリ菌抗体の有無を調べる検査と、  
**(+) 判定**となった場合の胃内視鏡検査の受診サポートがセットになったプランです。

**【対象】**・18歳～34歳の方  
 ・胃がんに罹患したことがない方  
 ・過去に医療機関でピロリ菌検査を実施し、陽性と判定されたことがない方

**(+) 判定で胃内視鏡（胃カメラ）検査**



**7,480 円** (税込)

お申し込みはこちら

**(+) 判定となった場合**、全国約 330 か所の提携医療機関にて胃内視鏡検査をお受けいただけます。  
 (税込3万円までサポート)

検査の流れ



**ピロリ菌検査のみ** **ピロリ菌尿中抗体検査**

**ピロリ菌検査**



尿中のピロリ菌抗体の有無を調べる、  
**シンプルな検査プラン**です。

**【対象】** 全年齢の方

**4,480 円** (税込)

お申し込みはこちら

